

平成 30 年度 自己評価結果公表シート

学園台こども園

1、園の教育目標

<p>「明るく 正しい 賢い子」を建学の精神とし、「環境を設える」を教育の理念として日々の保育に取り組む。</p> <p>本園では教育目標として以下の項目を掲げる</p> <p>1、言語教育 言葉や音感教育により生きる力及び、感性豊かな子を育む</p> <p>2、道徳を取り入れ、広く大きな心に包まれ安定した情緒を育む</p> <p>3、自分の意思を言葉で伝えられる子を育む</p>

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

<p>公私連携法人として始まった学園台こども園として、前年度以前より行われていた行事などを引継ぎ、新たに当法人として取り組むことができる教育活動について模索を行う。</p>
--

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
教育課程を幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育方針にしたがい編成している。	初年度はかほく市が行った行事、手法などをすべてトレースした。加えて地道に草の根的な言語活動を繰り返した。
教育要領、教育課程を子どもの実態などをもとに考えて作成している。	概ね古来より日本にある俳句や教え込まない言語活動について理解しを得られたように思われる。今後はもっと実践的な取り組みに移行していく。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	リスクマネジメントとして子どもにおける危機管理を書面にて行うヒヤリハットや事故報告書の活用をもって安全確認を行った。
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	教職員が自分の保育を見直す機会となる個人の自己評価を行う。初年度1回目は園の方針や教育活動などを十分に理解できていないという結果が出る。
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	一人一人の子どものよさを認め、教師が客観的に子どもを見る目を養うように努めている。又、慈悲をもって子どもの目線に立つよう努める。
あそびを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	砂山を取り入れ、園庭で、新鮮な感覚で遊べる環境を準備した。長時間の子どもたちが退屈をしない様絵本の読み聞かせなどで工夫をする。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行なう。	登園から降園までの一日の流れの中で、身に付けてほしい生活習慣の獲得を促している。
2園間での交流や相互の学びあいのため法人内研修を行う。	課題不達成。

各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。	教員免許更新講座が主で、キャリアアップできるような研修に参加する機会が少なかった。制度も私学（幼稚園協会）の研修ハンドブックについて十分に説明されない状態が続いており参加が難しい平日早朝夕方の配置を厚くする必要がある。
園だよりやホームページを通してこども園の情報を発信していく。	園だより、クラス便りにて行う。ホームページは写真の表示が出来ず不達成。
園の財務状況を積極的に公開する。	公認会計士より適正に処理されているとの報告を受けている。
安全管理	非常通報装置の設置、夕方の玄関施錠の徹底、防犯カメラの設置（2系統）、毎月の避難訓練、熱中症対策、熊・猿対策、など行う。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<p>あらたに設けた学校である学園台こども園が単独でのみの行事しかできず、同一法人として連携する事がごくわずかしかなかった。一時の物品の連携や人足ではなく、ノウハウや手法、伝統を取り入れることが大きな発展になるはず。表面のみにとられず根について物をじっくりと浸透させる必要がある。</p> <p>但し、新たに民営化を行ったこと、少なからず不安を持つ関係者のいる中で職員は試行錯誤を行い、安全かつ長時間にわたる教育保育を執行していった。難しい初年度を創意工夫と努力で乗り越えられた。</p>

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
星名学園 2 年目以降、教職員の思い思いの教育に取り組めるように配慮する	職員が目標である「明るく正しい賢い子」の実現のために自ら教育・保育を模索し、新しい教育を発掘する必要がある。そのヒントとして教育活動の研修や、保育内容の研修を行う。又、音楽活動が十分にできるようにピアノの子ども個人持ちへのアプローチを始める。職員の能力を保育のみならず教育に活かせるように得意なことを認め活躍できるようにする。
新しい教育の取り組み	目標を持った教育を行うには多年度による段階的手法が欠かせない。

6、学校関係者の意見

<p>(職員) 優 (良) 可 (学園理事会) (優) 良 可 (学園評議会) (優) 良 可 (第三者委員) (優) 良 可</p>
